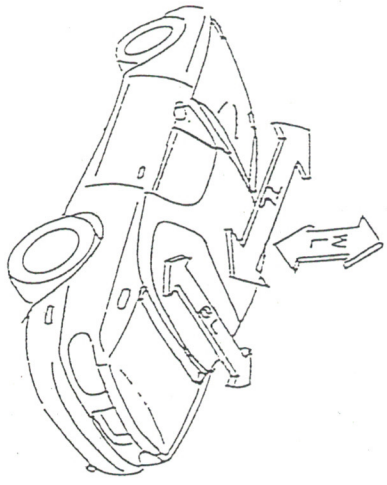


M 2 1 0 2 8 整備書
 追補版

デタッチャブルハードトップ 調整要領

1 9 9 4 - 4 ② M 2 INCORPORATED



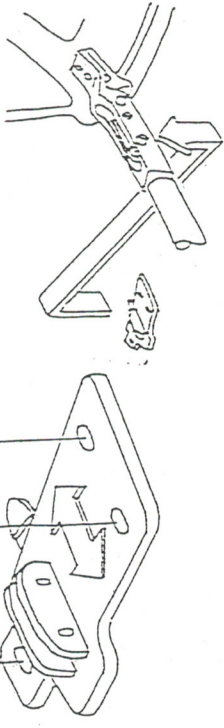
1. T L 方向のずれの修正

正規の位置より T L 方向にずれてセットされているとフロントツカカバーのレバーが固くなったり極端に軟らかく(テンションがかかっている状態) になってしまう。これを修正するには、

1. フロントDHTツケットによる調整。
 2. リアフックによる調整。
 3. これらに伴うサイドロックの調整。
- (まず、1-1 で調整してそれでも正規の位置にセット出来ない場合は、1-2 で調整してください。)

1-1

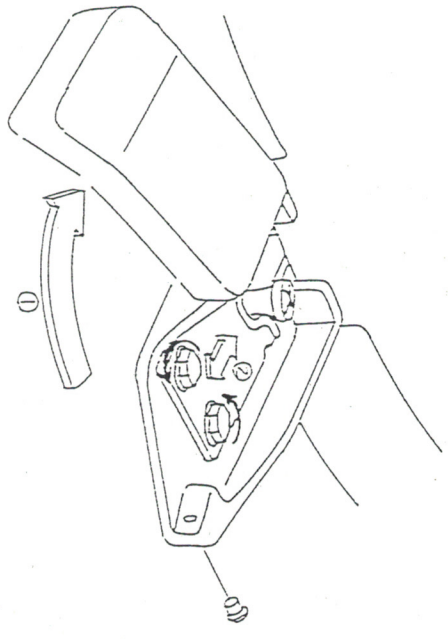
フロントDHTツケットによる調整。



1-2

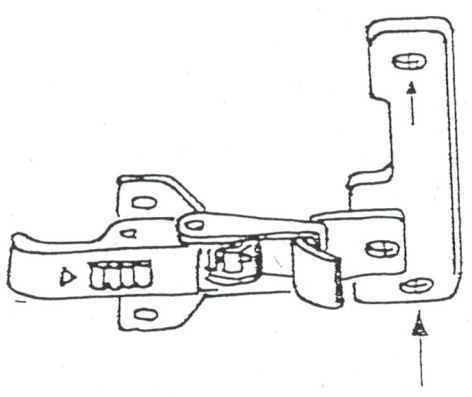
リアフックによる調整。

ビスを外し、カバーを①の様に回転させ、中のボルトを緩め、②の様に調整し、元に戻す。



1-3

これらに伴うサイドロックの調整。



図中ネジ(矢印)を緩め動かした後締め直す。前に動かすとレバーが軟らかくなり、後に動かすとレバーが固くなります。)

サイドロックの上下がずれた場合 DHT側のネジを緩め移動し調整する。

M2 1028

デタッチャブルヘッドトップ調整要領

2. BL方向のずれの修正

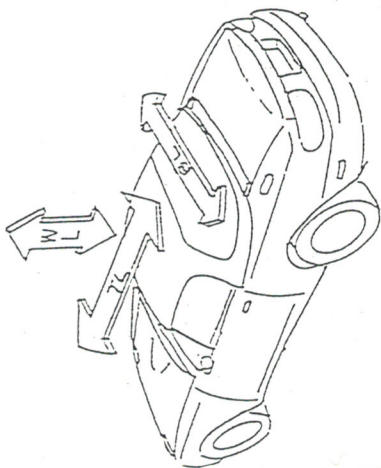
正規の位置よりBL方向にずれてセットされているとデタッチャブルヘッドトップとフロントハッチの合わせ部分の中心付近が膨らんでしまったりフロントアッパーバーロック部とフロントDHTブラケットがはまり辛くなります。これを修正するには、

1. フロントDHTブラケットによる調整。
2. トップロックスライカーによる調整。

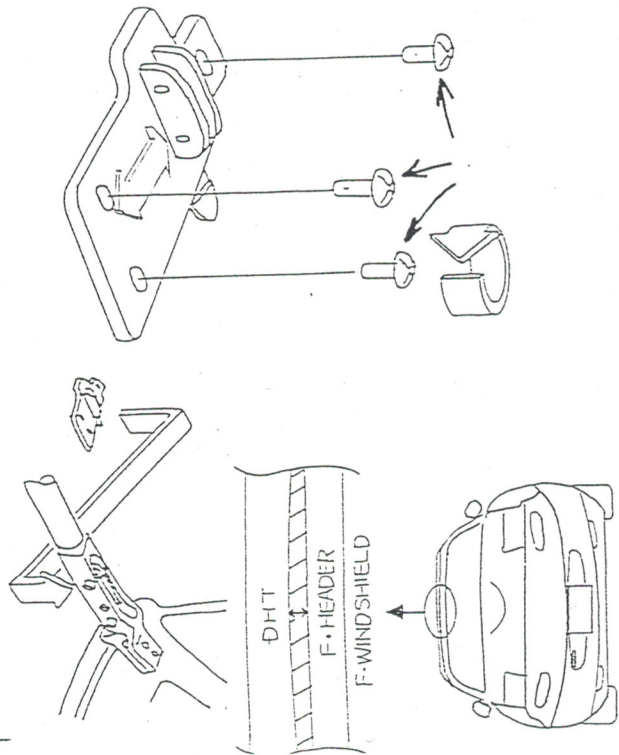
の2点を調整してください。
(まず、2-1で調整してそれでも正規の位置にセット出来ない場合は、

2-2で調整してください。)

2-1



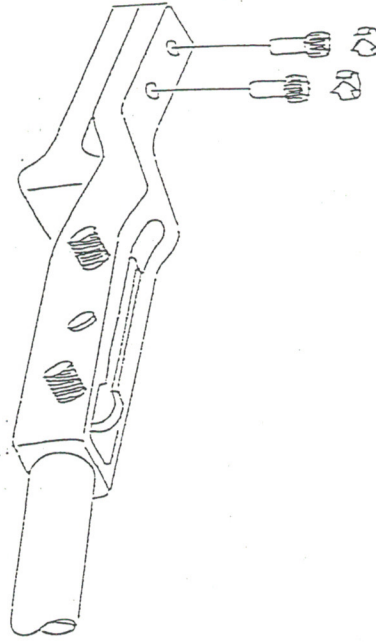
フロントDHTブラケットによる調整。



図中ネジ(矢印)を緩め、動かした後締め直す。車面に対して内側に動かすとセンターが浮き、外側に動かすと、センターが沈みます。

2-2

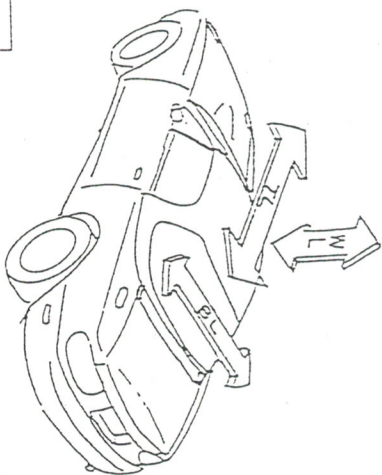
トップロックスライカーによる調整。



- ① フロントヘッダーとフロントアッパーバーの左側の締結ボルトを緩め左側のトップロックスライカーを動かして調整する。
(トップロックスライカーは左側のみ可動)

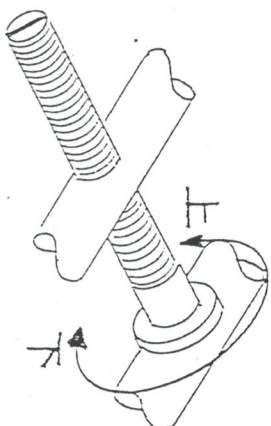
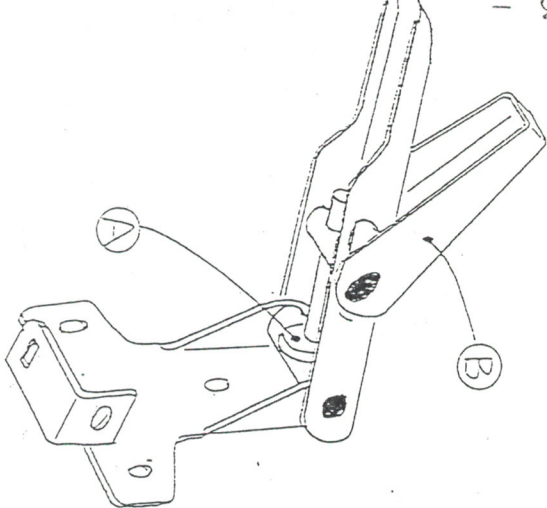
- ② DHTブラケットとフロントアッパーバーの位置がずれて嵌合しない場合は、メインバーとフロントアッパーバーの締結ボルトを緩めた後フロントヘッダーとの締結ボルト(2本)を緩め、BL方向に調整をする。

M2 1028
 デリタツヤギ® ルハート® ツツァ® 調整要領



3-1

サイドドロツクによる調整。



3. WL 方向のずれの修正

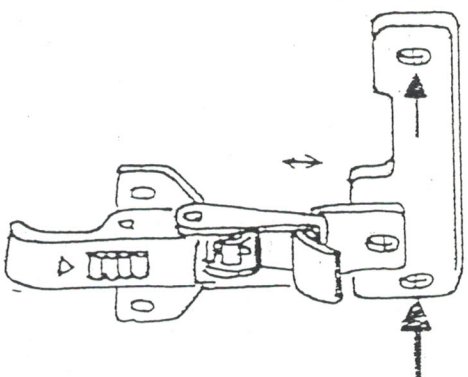
正規の位置よりWL方向にずれてセットされているとサイドドロツクが固くなったりテフシヨフが掛からず水洩れや、走行時に異音が発生したりします。これを修正するには、

1. サイドドロツクによる調整。
2. フロフトDHTツツァットによる調整。

の2点を調整してください。
 (まず、3-1で調整してそれでも正規の位置にセット出来ない場合は、3-2で調整してください。)

3-2

フロフトDHTツツァットによる調整。



図中Ⓐを回し、Ⓑの上下方向を調整する。

図中ネジ(矢印)を緩め
 動かした後締め直す。

M2 1028

整備書

追補版

デタッチャブル・ハード・トップ分解要領書

1995-4 ③

M2 INCORPORATED

デタッチャブル・ハード・トップ (D・H・T) バック・ウインド脱着要領 目次

1. D・H・Tバック・ウインド脱着工具類一覧表 (一般工具を除く) P. 2

2. D・H・Tバック・ウインド脱着に必要な部品 P. 2

3. D・H・Tの取外し P. 3

4. リヤ・バック・ウインドの脱着 P. 4

5. リヤ・バック・ウインドへの取付け部品 P. 5

6. リヤ・バック・ウインドのDHTへの取付け P. 6

7. リベット打ち P. 7

8. D・H・Tの取付け P. 9

9. D・H・Tの調整要領 P. 9

(別冊のデタッチャブル・ハード・トップ調整要領を参照)

| 品名 | 品番 | 取付位置 | 取付要領 |
|------------------|----|-------------|----------------|
| リヤ・バック・ウインド脱着工具 | 01 | リヤ・バック・ウインド | リヤ・バック・ウインド脱着 |
| リヤ・バック・ウインド取付け部品 | 02 | リヤ・バック・ウインド | リヤ・バック・ウインド取付け |
| リヤ・バック・ウインド取付け部品 | 03 | リヤ・バック・ウインド | リヤ・バック・ウインド取付け |
| リヤ・バック・ウインド取付け部品 | 04 | リヤ・バック・ウインド | リヤ・バック・ウインド取付け |

| 品名 | 品番 | 品名 | 品番 |
|------------------|----|------------------|----|
| リヤ・バック・ウインド脱着工具 | 01 | リヤ・バック・ウインド取付け部品 | 02 |
| リヤ・バック・ウインド取付け部品 | 03 | リヤ・バック・ウインド取付け部品 | 04 |
| リヤ・バック・ウインド取付け部品 | 05 | リヤ・バック・ウインド取付け部品 | 06 |
| リヤ・バック・ウインド取付け部品 | 07 | リヤ・バック・ウインド取付け部品 | 08 |



(7) リヤ・バック・ウインド脱着
 全体を後方へ押し出す。
 (8) リヤ・バック・ウインド取付け
 リヤ・バック・ウインドを後方へ押し出す。
 リヤ・バック・ウインドを後方へ押し出す。

デタッチャブル・ハード・トップ (D・H・T) バック・ウインド脱着要領

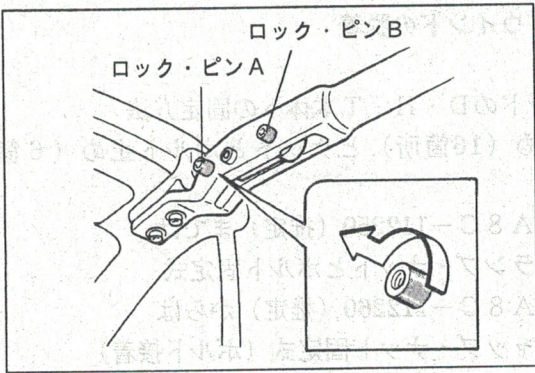
1. D・H・Tバック・ウインド脱着工具類一覧表 (一般工具を除く)

| 工具類 | 数 | 備 考 | 工具類 | 数 | 備 考 |
|----------------|---|-----------------------|-----------|---|---|
| リベット | 1 | エア式または機械式 口径 3.0mm | ヘラ | 1 | |
| 電気ドリルまたはエア・ドリル | 1 | 回転数が調整できるのが望ましい | バイス・ブライヤ | 1 | |
| ドリル刃 | 3 | 5.0mm 5.5mm 7.0mm | 事務用スプレーのり | 1 | 合成ゴム系接着剤 用途～紙用、ガラス繊維 用 住友スリーエム・77スプレー 相当品 |
| D・H・Tスタンド | 1 | | 電気掃除機 | 1 | |
| 丸ヤスリ | 1 | 外径 4.0mm程度 | 中性洗剤 | 適 | |
| 平ヤスリ | 1 | 幅 5.0mm程度 | ウエス | 量 | |
| 補修用ペイント | 1 | 色～黒系 | | | |

2. D・H・Tバック・ウインド脱着に必要な部品

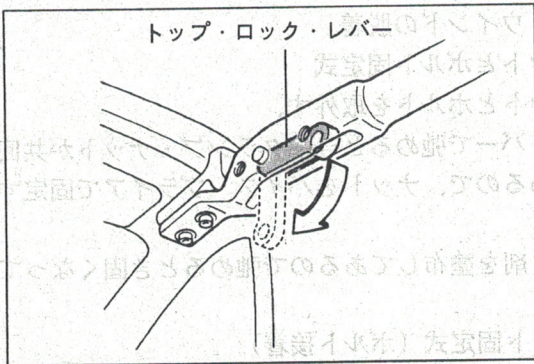
| 固定方法 | 必須部品 | バックウインド交換時必要 | 備 考 |
|-----------------------|-------------------|--------------|-------------------------|
| クランプ・ナットとボルト方式 | リベット・セット、ナットとボルト類 | キャップ・ナット類 | ボルト再使用不可 スペーサは再使用 |
| キャップ・ナット方式 (ボルト接着) | リベット・セット | — | キャップ・ナット類、スペーサ Bは再使用 |

| セット番号 | 構成部品 | 員 数 | 備 考 |
|-------------------------|--|-----------------------------|-------------------|
| リベット・セット N906 63 99A | 水密テープ リベット ゴム・パッキン ワッシャ (室内) ワッシャ (室外) | 1台分 20 20 20 20 | 員数の中には予備数4個ずつを含む。 |

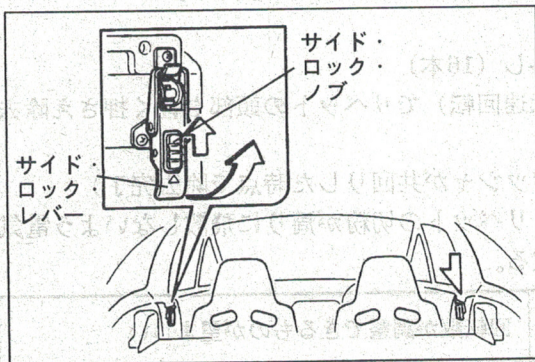


3. D・H・Tの取外し

- (1) アンテナを取外す。
- (2) サンバイザを倒し、左右のドア・ウインドを全開にする。
- (3) 左右のロール・ケージ・クッションを取外す。
- (4) トップ・ロック・レバーを上の方に手で押さえつつ、ロック・ピンBを、次に、ロック・ピンAを左方向に回して引き抜く。



- (5) トップ・ロック・レバーを下げ、ロックを解除する。



- (6) サイド・ロック・ノブを上げたまま、サイド・ロック・レバーを引き上げ、ロックを解除する。



- (7) リヤ・デッキ・ロックを下方へ手で押さえながらD・H・T全体を後方にスライドさせる。
- (8) D・H・Tを垂直に持ち上げ、車両から取外す。
- (9) D・H・TをD・H・Tスタンドに置く。

4. リヤ・バック・ウインドの脱着

(1) バック・ウインドのD・H・T本体への固定方法

<リベット止め（16箇所）とナットとボルト止め（6箇所）>

- ① 車台番号 NA8C-112259（推定）までは
クランプ・ナットとボルト固定式
- ② 車台番号 NA8C-112260（推定）からは
キャップ・ナット固定式（ボルト接着）

(2) リヤ・バック・ウインドの脱着

① クランプ・ナットとボルト固定式

- クランプ・ナットとボルトを取外す。
- ボルトをドライバーで弛めるとき、クランプ・ナットが共回りすることがあるので、ナットをバイス・プライアで固定する。
- ボルトにロック剤を塗布してあるので弛めるとき固くなっている。

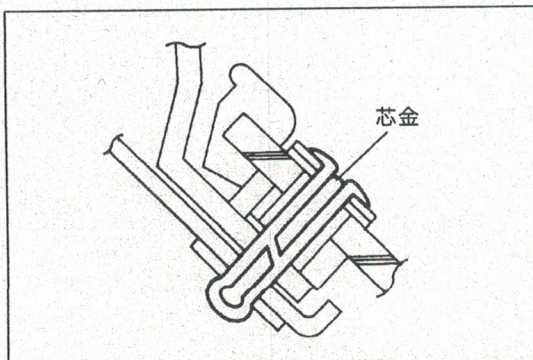
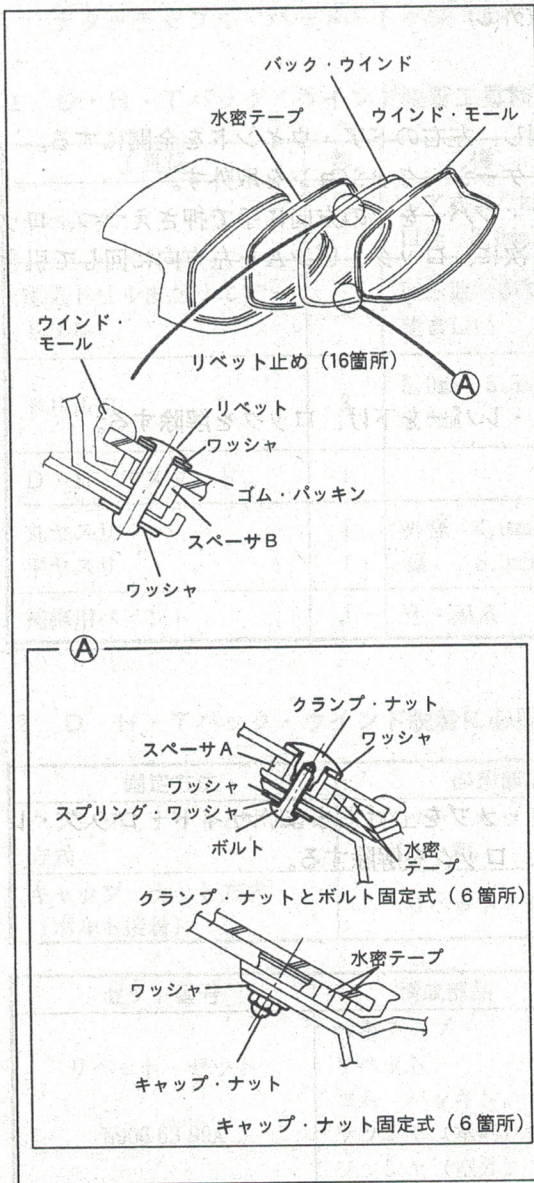
② キャップ・ナット固定式（ボルト接着）

- ナットを8mmのボックス・レンチで取外す。

(3) リベットの取外し（16本）

- ① 電気ドリル（低速回転）でリベットの頭部を軽く押さえ除去する。
（そのとき、ワッシャが共回りした時点で除去完了）
- ② 除去するとき、リベットの切粉が周りに飛散しないよう電気掃除機で吸い取る。

| | |
|----------------------|------------------|
| 電気ドリルまたは エア・ドリル仕様 | 回転数が調整できるものが望ましい |
| ドリル刃の仕様 | 直径7mm |



リベット頭部の除去時の留意点

- ドリル刃の横滑り防止のため、リベット頭部に芯金が残っている場合は、芯金に宛がいハンマ等で軽打して芯金を中へ入れておく。
- ③ リベットの残り部位をD・H・Tの内側からプライヤで抜き取る。
- ④ バック・ウインドからモールを取外す。

(4) D・H・T、バック・ウインドの洗浄

① D・H・Tのバック・ウインド取付け面

- D・H・Tのバック・ウインド取付け面のダスト類を「中性洗剤を使用した柔らかいウエス等」で除去する。

② バック・ウインド

- バック・ウインドの水密テープ、ダスト類を「中性洗剤を使用した柔らかいウエス等」で除去する。

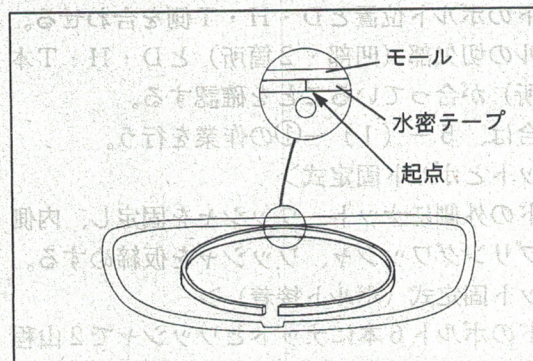
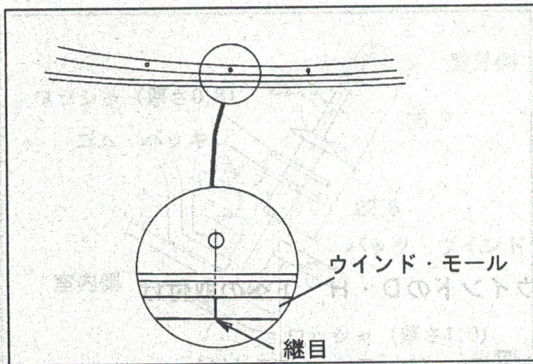
③ D・H・T、バック・ウインドの洗浄時の留意点

- 洗浄時は中性洗剤を使用する。
- 銹物油類は水密テープ等を侵し、水漏れの原因となるため銹物油は絶対に使用しない。

5. リヤ・バック・ウインドへの取付け部品

(1) バック・ウインドへの取付け部品

| 取付け順序 | 取付け部品 | 員数 |
|-------|----------|-----|
| 1 | ウインド・モール | 1本 |
| 2 | 長い水密テープ | 2本 |
| 3 | スパーサB | 16個 |
| 4 | 短い水密テープ | 16本 |



① ウインド・モールの取付け

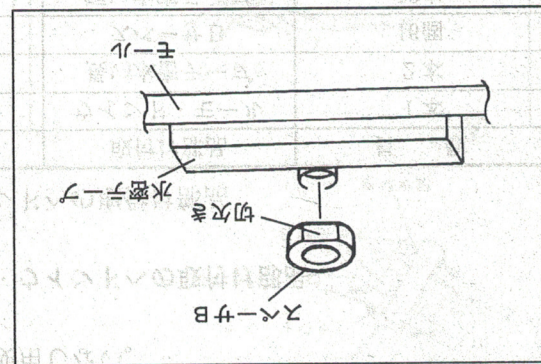
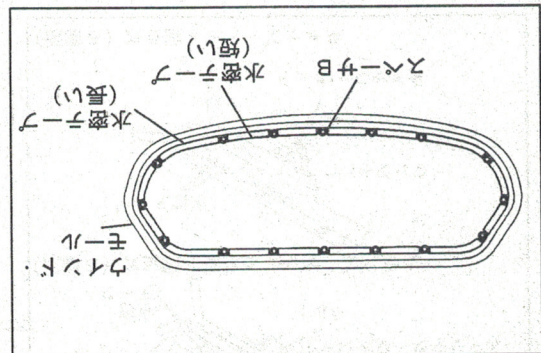
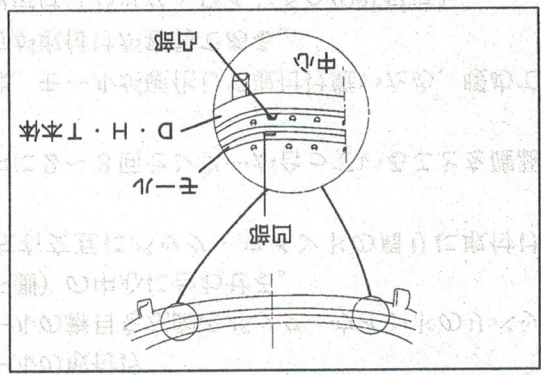
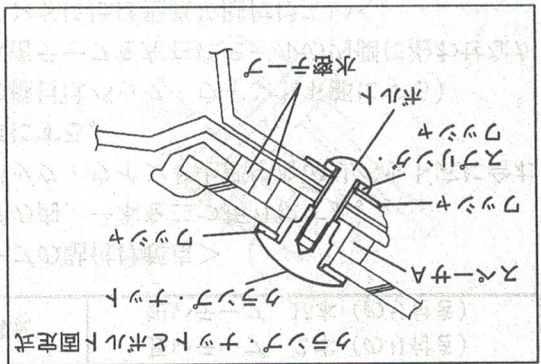
- ウインド・モールの継目を左図のバック・ウインドのリベット穴（位置・下側）の中心に合わせる。
- そこを起点に左右交互にバック・ウインドの周りに取付ける。
- その作業の途中に2～3回センターが合っていることを確認する。
- 外気が低い時は、モールが硬化して取付け難いため、暖めて柔らかくした方が取付けが容易である。

② 水密テープの取付け（バック・ウインドへの貼付け）

| 水密テープの構成 | 長いテープ 2本（のり付き） 短いテープ 16本（のり付き） |
|----------|-----------------------------------|
|----------|-----------------------------------|

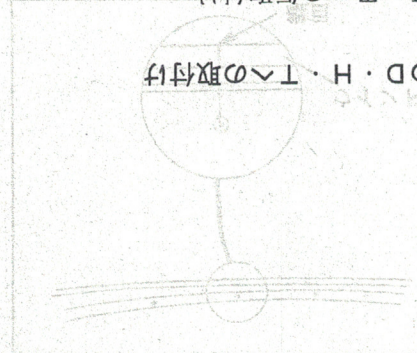
<長い水密テープの貼付け起点>

- 長い水密テープの内、一本を二つ折りにする。
- その折り目をバック・ウインド上部中心のリベット穴に合わせ、貼付け起点にする。
(水密テープの継目はバック・ウインド下部にする)
- その起点から水密テープを左右にモールの内側に沿わせながらバック・ウインドにほぼ垂直に貼付けていく。



- ① バック・ウインドのボルト位置とD・H・T側を合わせる。
- ② ウインド・モールの切欠部(凹部・2箇所)とD・H・T本体の凸部(2箇所)が合っていることを確認する。
- ③ 合っていない場合は、5-(1)-①の作業を行う。
- ④ クラップ・ナットとボルト固定式
- ⑤ バック・ウインドの外側にナット、ワッシヤを固定し、内側からボルト、スプリングワッシヤ、ワッシヤを仮締めする。
- ⑥ キヤップ・ナット固定式(ボルト接着)
- ⑦ バック・ウインドのボルト6本にナットとワッシヤで2山程度、手で仮締めする。

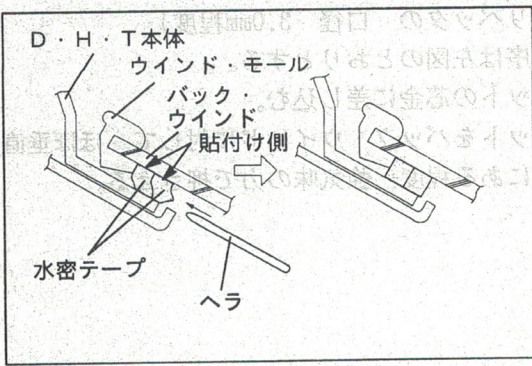
6. リヤ・バック・ウインドのD・H・Tへの取付け



- ① バック・ウインドのD・H・Tへの仮取付け
- ② リヤ・バック・ウインドのD・H・Tへの取付け
- ③ スーサーBの取付け(再使用 16箇所)
- ④ スーサーに不着しているのり、ダスト類を除去する。
- ⑤ スーサーに市販の事務用スリーヴのりを薄く吹き付ける。
- ⑥ 住友スリーエム77スリーヴ相当品
- ⑦ 合成ゴム系接着剤
- ⑧ 用途 紙用、ガラス繊維用
- ⑨ スーサーの切欠部をモール側に向け、バック・ウインドのりハット穴に合わせ、その上に貼付ける。
- ⑩ 水密テープがリハット穴付近まで、はみだしている場合はスーサーをモール側に押しつけ貼付ける。
- ⑪ 短い水密テープの取付け(バック・ウインドへの貼付け)
- ⑫ スーサー間(リハット間)に短い水密テープを外側の水密テープに沿わせながらほぼ垂直に貼付けていく。
- ⑬ 水密テープの取付け状態の安定
- ⑭ 水密テープを10cm四方のダンボール片等を介して手で軽く押し付け、水密テープのバック・ウインドへの取付け状態を安定させる。

| | | | |
|------------------|-----------|----------|--------------|
| 住友スリーエム77スリーヴ相当品 | 事務用スリーヴのり | 合成ゴム系接着剤 | 用途 紙用、ガラス繊維用 |
|------------------|-----------|----------|--------------|

- ③ スーサーBの取付け(再使用 16箇所)
- ④ スーサーに不着しているのり、ダスト類を除去する。
- ⑤ スーサーに市販の事務用スリーヴのりを薄く吹き付ける。
- ⑥ 住友スリーエム77スリーヴ相当品
- ⑦ 合成ゴム系接着剤
- ⑧ 用途 紙用、ガラス繊維用
- ⑨ スーサーの切欠部をモール側に向け、バック・ウインドのりハット穴に合わせ、その上に貼付ける。
- ⑩ 水密テープがリハット穴付近まで、はみだしている場合はスーサーをモール側に押しつけ貼付ける。
- ⑪ 短い水密テープの取付け(バック・ウインドへの貼付け)
- ⑫ スーサー間(リハット間)に短い水密テープを外側の水密テープに沿わせながらほぼ垂直に貼付けていく。
- ⑬ 水密テープの取付け状態の安定
- ⑭ 水密テープを10cm四方のダンボール片等を介して手で軽く押し付け、水密テープのバック・ウインドへの取付け状態を安定させる。



(2) 水密テープの取付け状態の安定

- ① D・H・Tの室内側より、水密テープを全周に渡りヘラ等で「貼付けていない側」を押し込み、取付け状態を安定させる。
- ② 作業上の注意点
スペーサBは位置が変化するため押し込まない。

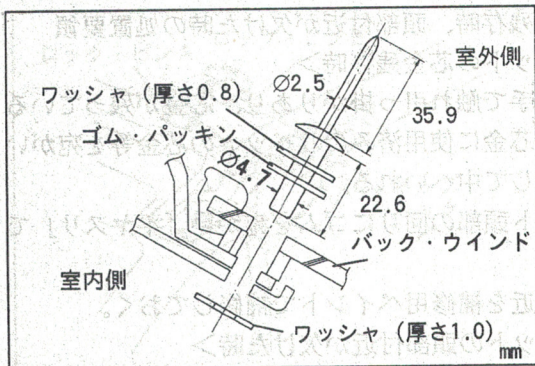
7. リベット打ち

(1) リベット打ちの事前準備

- ① D・H・Tとバック・ウインドのリベット穴の位置確認
 - バック・ウインドのリベット穴にリベットを16本差し込む。
 - この状態でリベットはバック・ウインドに対して、ほぼ垂直状態であること。
 - バック・ウインドを上下、左右にずらしても、リベットが差し込みできない状態等の時は、リベット穴を修正する。
 - 修正方法は、バック・ウインドを取外し、D・H・T側のリベット穴を丸ヤスリ（外径 5.0mm程度）で修正する。ダスト類は除去する。
 - 一旦、バック・ウインドを取外した場合は「6 - (1) - (2) の水密テープの取付け状態」の作業を繰り返す。

② リベットのセット化とリベット類の構成部品

- 左図のようにリベットにワッシャ、次にゴム・パッキンを取付ける。<ゴム・パッキンがバック・ウインド側になる>

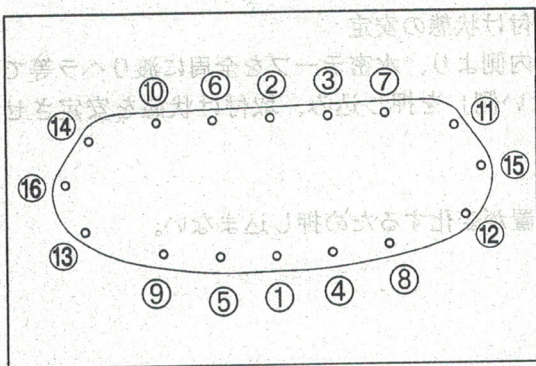


| 構成部品 | 員数 | 備考 |
|--------------|----|--|
| リベット | 20 | 仕様：水密リベット |
| ゴム・パッキンとワッシャ | 20 | バック・ウインド側に使用 裏表無し 仕様：厚さ0.8mm 内径5.5mm |
| ワッシャ | 20 | D・H・T側に使用 裏表無し 仕様：厚さ1.0mm 内径5.0mm |

員数の中には 予備数4個ずつを含む。

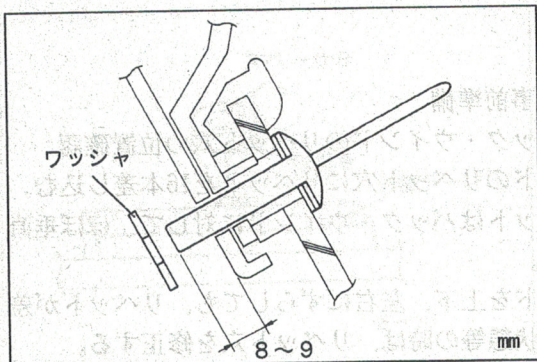
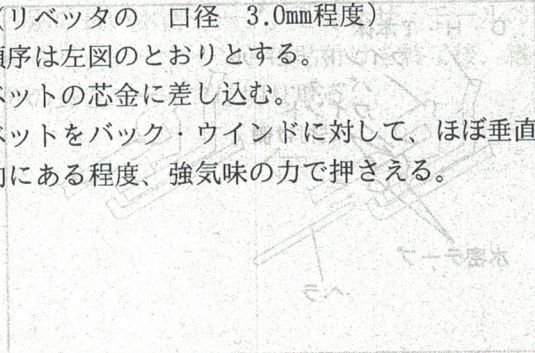
(2) リベット打ち

- ① セット化したリベット16本をD・H・Tとバック・ウインドのリベット穴に差し込む。
- ② スペーサの存在確認
 - 目視で確認する。
 - 目視確認出来ない部位は、リベットに垂直方向に力を加えスペーサが所定位置に「存在すること」を確認する。「無いとき」は、バック・ウインドが少々へこむ。

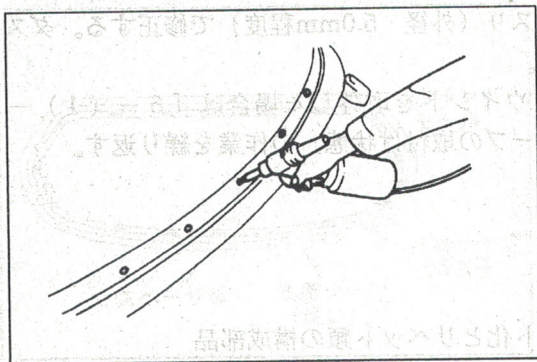


③ リベット打ち (リベッタの 口径 3.0mm程度)

- リベット打ち順序は左図のとおりとする。
- リベッタをリベットの芯金に差し込む。
- リベッタのリベットをバック・ウインドに対して、ほぼ垂直にして、軸方向にある程度、強気味の力で押さえる。



- この状態でD・H・T側のリベットが約8~9mm程度出ていることを確認する。
- 一方で、D・H・Tの内側からワッシャ (厚さ1.0mm 内径5.0mm) をリベットに取付ける。



- この状態でリベッタを作動させる。
- リベットの芯金をバイス・プライヤ等で左右交互に回転させながら軸方向に抜き取る。

④ リベットの芯金残存時、頭部付近が欠けた時の処置要領
 <その1 リベットの芯金残存時>

- リベット頭部が手で触れ引っ掛かりあり、芯金が残っている場合は、まず、芯金に使用済みのリベットの芯金等を宛がいハンマ等で軽打して中へ入れる。
- または、リベット頭部の回りにゴムを宛がい「平ヤスリ」で削る。
- リベット頭部付近を補修用ペイントで補修しておく。

<その2 リベットの頭部付近が欠けた時>

- 4-(3) <リベットの取外し要領>で作業を行い、D・H・T側のリベットまで貫通させる。
- 貫通作業は下表のドリル刃仕様で2回実施し、D・H・Tとバック・ウインド内のリベット残存物を完全に除去する。

| | |
|--------|-------------------------|
| ドリル刃仕様 | 第1目 直径5.0mm 第2目 直径5.5mm |
|--------|-------------------------|

(3) 水密テープの取付け状態を確認する。

「6 - (2) の水密テープの取付け状態」の作業要領を参照。

(4) 締付けトルク

＜キャップ・ナット固定式（ボルト接着）＞

締付けトルク 18～20 kgf·cm

＜クランプ・ナットとボルト固定式＞

締付けトルク 15～17 kgf·cm

＜締めすぎに注意＞

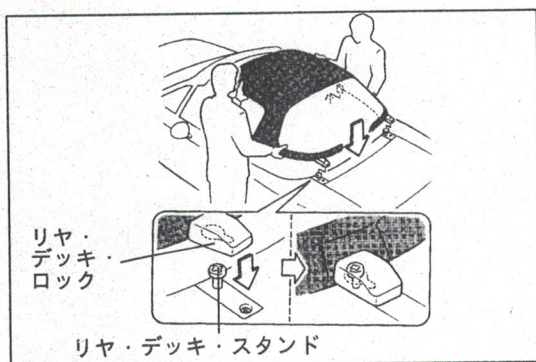
(5) D・H・T室内側リベットとクランプ・ナット周りの補修

- 上記、周り付近のD・H・T塗装（つや消し黒色）の欠け、ひび等を補修用ペイントで修正する。

- 補修用ペイント 黒系色

(6) D・H・Tバック・ウインド内側を清掃する。

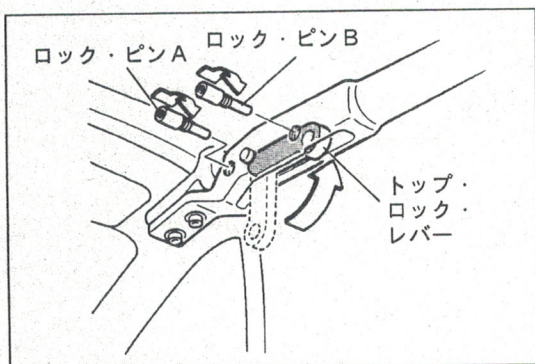
バック・ウインドの清掃・洗浄は「中性洗剤」を使用する。



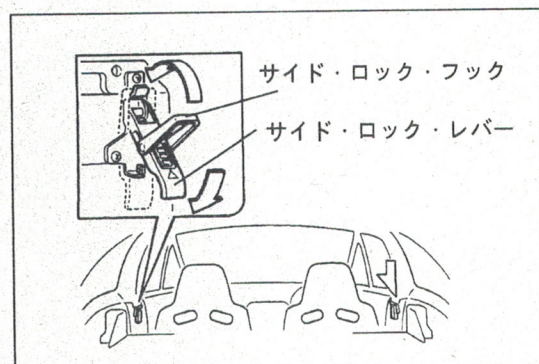
8. D・H・Tの取付け

(1) D・H・Tを車両の上に水平に運ぶ。

(2) D・H・Tのリヤ・デッキ・ロックを手で押さえながら、D・H・T全体を前方へスライドさせ、デッキ・ロックを固定させる。



(3) トップ・ロック・レバーを引き上げ、最初に、ロック・ピンA、さらにロック・レバーを上げ気味にしてロック・ピンBを右に回して締付ける。



(4) 左右のサイド・ロック・フックをかけながら、サイド・ロック・レバーを押し下げ固定する。

(5) 左右のロール・ケージ・クッションを取付ける。

(6) D・H・Tバック・ウインド外側を清掃する。

9. D・H・Tの調整要領

別冊のデタッチャブル・ハードトップ調整要領を参照